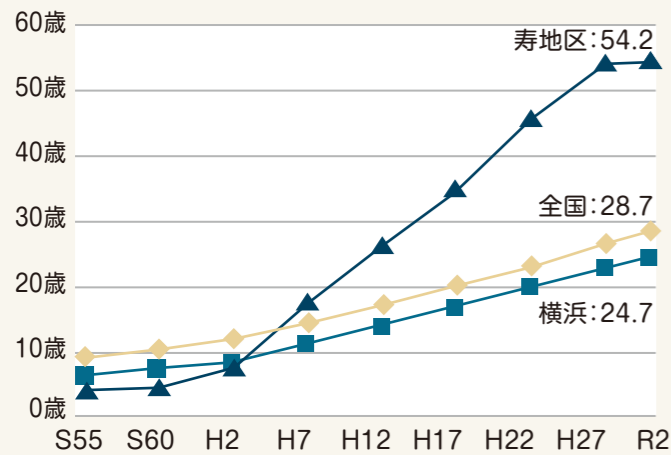


## 寿地区の統計データ

### 65歳以上人口比率(高齢比率)の推移



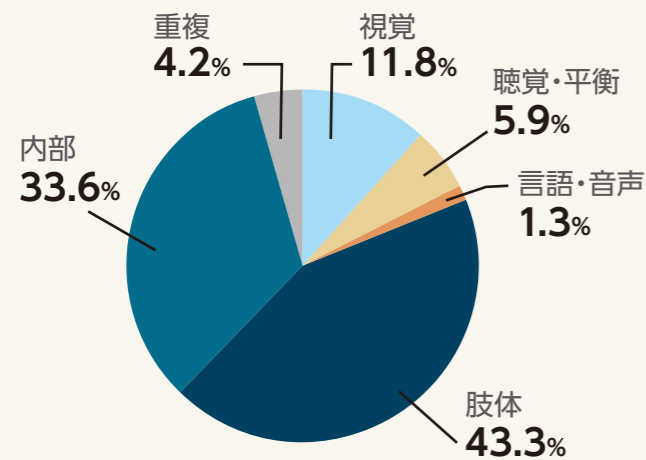
### 令和2年 要介護者数調査の結果

区分(介護度)	要介護(人)	要支援(人)	計(人)
5	45		
4	82		
3	186		
2	323	120	
1	175	56	
計	811	176	987

うち65歳以上計 911人

### 令和2年 障害種別内訳の割合

1～3級身体障害者手帳保持者238人の内訳



### データから見た寿地区

令和2年11月時点で簡易宿泊所に5,859人が宿泊しており、ほとんどが単身世帯です。

高齢化率は50%を超えており、そのスピードは全国、横浜市全体を大きく上回り、平成に入ってから急激に高齢化が進んでいます。高齢者の中でも75歳以上が3割以上を占めています。

要介護認定を受けている住民は987人で、高齢者全体に占める割合は28.6%となっています。また、1～3級の身体障害者手帳保持者は238人です。要介護者や障害のある住民も多い「福祉ニーズの高いまち」といえます。(データ出典:「横浜市寿福祉プラザ相談室令和2年度業務概要」)

### 寿地区ちょっと紹介

アンケートを実施したり地区のウォーキング・生活マップを作ったりしています



5年後の寿町がどんなまちになってほしい？ アンケート

☆今までのとどろき

- 住民での集まり、参加できるような仕組み。
- 施設、やいばり、高齢者、若者でも参加できるような企画を企画し、お楽しみながら参加できるような企画を作りました。
- 防災や健康など市内の情報を共有する仕組みができました。
- 寿公園、でもお楽しみ参加を積極的に開催しました。

アンケートは裏面です。答えられることを書いていただければ幸いです。



# 寿地区

## 5年後の目指す姿

寿に住んでいる、寿で育ったと、堂々と言えるまち  
～寿はたがいに受け止め合い支え合う～

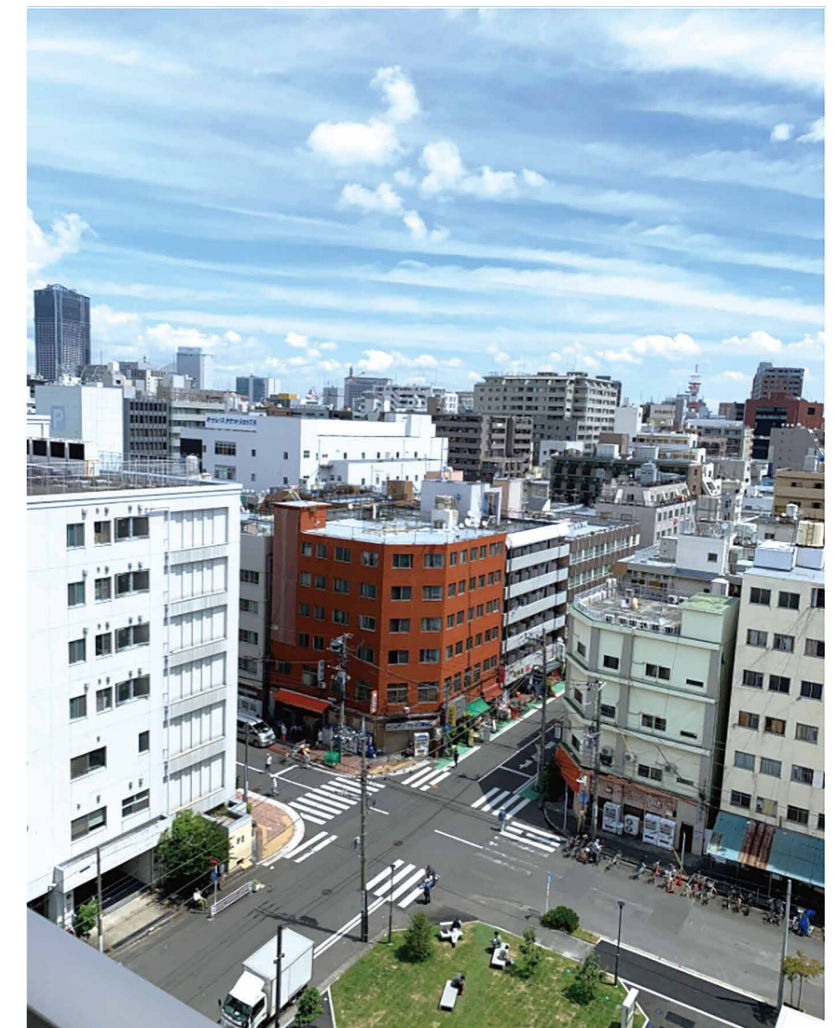
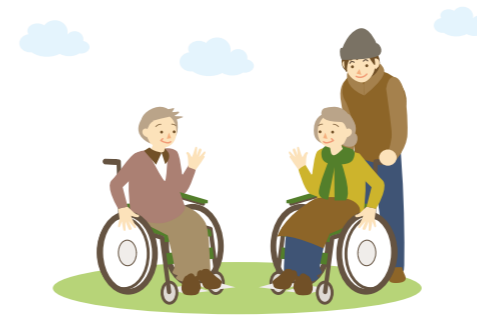


七夕まつり ▲

みんなの運動会 ▲

### 寿地区はこんなまちです

寿町を含む約0.06km<sup>2</sup>の範囲に120軒以上の簡易宿泊所が密集している地域で、約5,700人が宿泊しています。最盛期には、8,000人以上の労働者達でにぎわった寿地区も住民の高齢化と生活保護を受給する人が増加し、「福祉ニーズの高いまち」へと変容しています。令和元年には、横浜市寿町健康福祉交流センターがオープンし、高齢化に対応した交流や防災の取り組みを進めています。



扇町・寿町・長者町・松影町・三吉町の一部

## これまでの計画(第3期)の振り返り

「コトブキンちゃんのでてくる健康マップ」の作成は、健康づくりのための基本となるウォーキングと健康のバロメーターにもなる血圧測定、困ったときの相談窓口を総合した内容で、大変効果的な啓発媒体となりました。作成過程では、子どもの頃から寿町に慣れ親しんできた若い世代との共同作業による交流も生まれました。

みんなの運動会等の季節ごとのイベントは、多世代交流の場となり、地域の連帯感や団結力が深まりました。

久保山納骨堂や千秋の丘への慰霊は、寿地区と故人のつながりを保ち続けることであり、現在住む人々の安心感にもつながっていきます。

住民が手軽に情報を発信し、入手できる掲示板を設置しました。

## 第4期計画はこのように取り組みました

自治会や地区社協、民児協など地域に関わる人が集まる「ゆめ会議」(毎月開催)で、意見交換をしながら取り組みました。



## 第4期計画

目標	第4期の取組	取り組む理由	視点
住んでいる人、住んでいた人、働く人、訪れる人などまちに関わる人が人とのつながりを感じられるまちにします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● まちの中で気軽に人とつながることが出来る場所や取組を多様にすることで、ひとりひとりが居心地の良さや生きがいを感じられるようにします。</li> <li>● つながりの場の運営者同士もネットワークを持ち、取組情報を共有します。</li> <li>● 寿地区に暮らす人のつながりを絶やさぬよう、久保山納骨堂や千秋の丘への慰霊を続けます。</li> <li>● ゆめ会議等、寿地区に関わる子ども、高齢者、障害者、働く人の現状を共有し、支えあうまちづくりを進めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コロナ禍ということもあり、気軽に話したり、のんびりしたりできる交流の場や取組が減ってきていると感じる。交流は、心の健康にもつながるので、様々な場があるとよい。引きこもりがちな人もいて心配がある。</li> <li>● 困りごとを抱える人が、一時的に駆け込める場所も必要。</li> <li>● 様々な人が関わり、「寿地区」を作っている。</li> </ul>	えん結び
日常的な健康づくりを続けると共に、認知症等の病気になっても住みやすい地域づくりに取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第3期計画で作成した「コトブキンちゃんのでてくる健康マップ」の更新を検討していきます。</li> <li>● ラジオ体操などの習慣的な健康づくりの取組を続けていきます。</li> <li>● 認知症の理解と予防について啓発を進めると共に、認知症になっても暮らし続けられるまちになるよう、人とのつながり作りを中心に取組を考えていきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 運動不足になりやすい状況が多く、日常的な運動習慣が必要。</li> <li>● 健康づくりには、早期に相談や治療をすることが大切。</li> <li>● 住民の高齢化が進み、認知症の方が増えてきていると感じる。道で迷っている人も見かけることがある。</li> </ul>	元気いっぱい
寿地区に関わる人に地区のことや役立つ情報を伝えていきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 掲示板に寿地区での取組や健康のことなど役立つ情報を掲示します。</li> <li>● 病気や障害、防災等の寿地区に関わる人が知っているという良い情報を集め共有していきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第3期計画で設置した掲示板をもっと活用したい。</li> <li>● 地区で行われている様々な取組を知らない人もいます。</li> <li>● 住民の健康意識が高いので、相談場所や健康に関する正確な情報を伝えられると一人一人の健康づくりが進むのではないかと。</li> </ul>	えん結び 元気いっぱい



# 寿地区

## 5年後の目指す姿

寿に住んでいる、寿で育ったと、堂々と言えるまち  
～寿はたがいに受け止め合い支え合う～



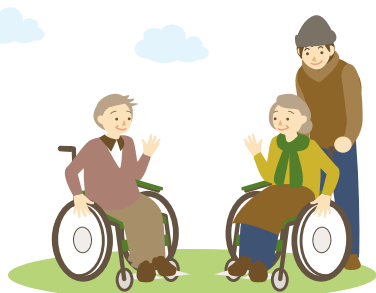
七夕まつり ▲



みんなの運動会 ▲

### 寿地区はこんなまちです

寿町を含む約0.06km<sup>2</sup>の範囲に120軒以上の簡易宿泊所が密集している地域で、約5,700人が宿泊しています。最盛期には、8,000人以上の労働者達でにぎわった寿地区も住民の高齢化と生活保護を受給する人が増加し、「福祉ニーズの高いまち」へと変容しています。令和元年には、横浜市寿町健康福祉交流センターがオープンし、高齢化に対応した交流や防災の取り組みを進めています。



扇町・寿町・長者町・松影町・三吉町の一部

## これまでの計画(第3期)の振り返り

「コトブキンちゃんのとくてく健康マップ」の作成は、健康づくりのための基本となるウォーキングと健康のバロメーターにもなる血压測定、困ったときの相談窓口を総合した内容で、大変効果的な啓発媒体となりました。作成過程では、子どもの頃から寿町に慣れ親しんできた若い世代との共同作業による交流も生まれました。

みんなの運動会等の季節ごとのイベントは、多世代交流の場となり、地域の連帯感や団結力が深まりました。

久保山納骨堂や千秋の丘への慰霊は、寿地区と故人のつながりを保ち続けることであり、現在住む人々の安心感にもつながっていきます。

住民が手軽に情報を発信し、入手できる掲示板を設置しました。

## 第4期計画

目標	第4期の取組
<p>住んでいる人、住んでいた人、働く人、訪れる人などまちに関わる人が人とのつながりを感じられるまちにします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● まちの中で気軽に人とつながることが出来る場所や取組を多様にすることで、ひとりひとりが居心地の良さや生きがいを感じられるようにします。</li> <li>● つながりの場の運営者同士もネットワークを持ち、取組情報を共有します。</li> <li>● 寿地区に暮らす人のつながりを絶やさぬよう、久保山納骨堂や千秋の丘への慰霊を続けます。</li> <li>● ゆめ会議等、寿地区に関わる子ども、高齢者、障害者、働く人の現状を共有し、支えあうまちづくりを進めます。</li> </ul>
<p>日常的な健康づくりを続けると共に、認知症等の病気になっても住みやすい地域づくりに取り組みます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第3期計画で作成した「コトブキンちゃんのとくてく健康マップ」の更新を検討していきます。</li> <li>● ラジオ体操などの習慣的な健康づくりの取組を続けていきます。</li> <li>● 認知症の理解と予防について啓発を進めると共に、認知症になっても暮らし続けられるまちになるよう、人とのつながり作りを中心に取組を考えていきます。</li> </ul>
<p>寿地区に関わる人に地区のことや役立つ情報を伝えていきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 掲示板に寿地区での取組や健康のことなど役立つ情報を掲示します。</li> <li>● 病気や障害、防災等の寿地区に関わる人が知っていると良い情報を集め共有していきます。</li> </ul>

## 第4期計画はこのようにつくりました

自治会や地区社協、民児協など地域に関わる人が集まる「ゆめ会議」(毎月開催)で、意見交換をしながら作りました。

!! nakanaka photo



マスク着用啓発キャンペーン



ことぶき福祉まつりの大太巻き



### 取り組む理由

### 視点

- コロナ禍ということもあり、気軽に話したり、のんびりしたりできる交流の場や取組が減ってきていると感じる。交流は、心の健康にもつながるので、様々な場があるとよい。引きこもりがちな人もいて心配がある。
- 困りごとを抱える人が、一時的に駆け込める場所も必要。
- 様々な人が関わり、「寿地区」を作っている。

えん結び

- 運動不足になりやすい状況が多く、日常的な運動習慣が必要。
- 健康づくりには、早期に相談や治療をすることが大切。
- 住民の高齢化が進み、認知症の方が増えてきていると感じる。道で迷っている人も見かけることがある。

元気いっぱい

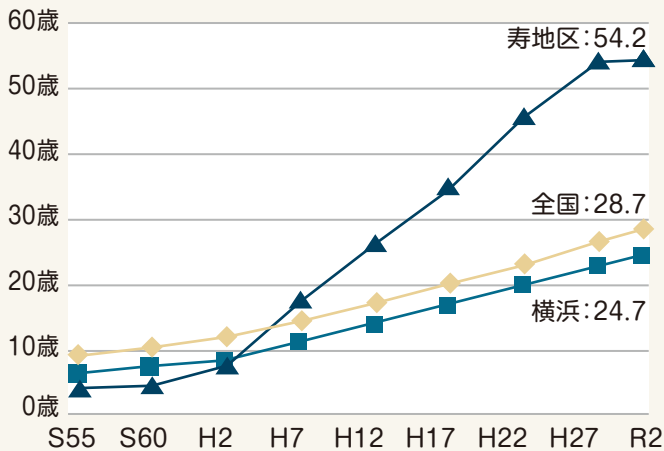
- 第3期計画で設置した掲示板をもっと活用したい。
- 地区で行われている様々な取組を知らない人もいる。
- 住民の健康意識が高いので、相談場所や健康に関する正確な情報を伝えられると一人一人の健康づくりが進むのではないか。

えん結び  
元気いっぱい

えん結び・・・見守り力を高める取組      元気いっぱい・・・健康づくりの取組

# 寿地区の統計データ

## 65歳以上人口比率(高齢比率)の推移

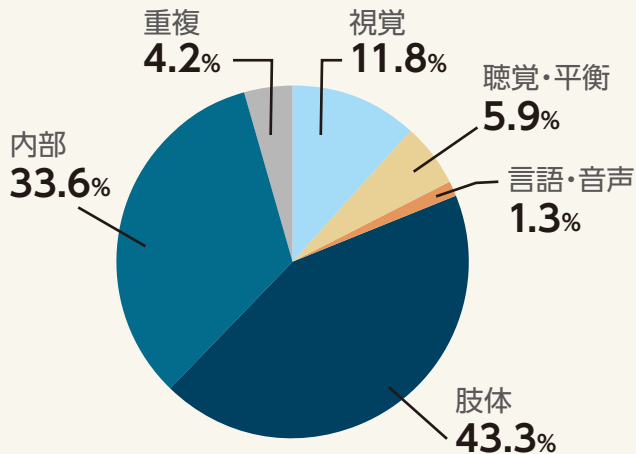


## 令和2年 要介護者数調査の結果

区分(介護度)	要介護(人)	要支援(人)	計(人)	
5	45			
4	82			
3	186			
2	323	120		
1	175	56		
計	811	176	987	うち65歳以上計 911人

## 令和2年 障害種別内訳の割合

1～3級身体障害者手帳保持者238人の内訳



## データから見た寿地区

令和2年11月時点で簡易宿泊所に5,859人が宿泊しており、ほとんどが単身世帯です。

高齢化率は50%を超えており、そのスピードは全国、横浜市全体を大きく上回り、平成に入ってから急激に高齢化が進んでいます。高齢者の中でも75歳以上が3割以上を占めています。

要介護認定を受けている住民は987人で、高齢者全体に占める割合は28.6%となっています。また、1～3級の身体障害者手帳保持者は238人です。要介護者や障害のある住民も多い「福祉ニーズの高いまち」といえます。(データ出典:「横浜市寿福祉プラザ相談室令和2年度業務概要」)

## 寿地区ちょっと紹介

アンケートを実施したり地区のウォーキング・生活マップを作ったりしています



**5年後の寿町が  
どんなまちになってほしい?  
アンケート**

☆今までのとどろき

- 住居さんが気軽に相談できるようなことしてほしい。
- 相談や支援の場が、誰でも気軽に相談できるような場所やサービスがほしい。
- 防犯や健康など寿町内の情報共有や情報提供が必要だな。

アンケートは裏面です。  
答えられることを書いていただければ幸いです。